

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	家庭・家庭基礎（普・理）	単位数	2	担当者	橋爪
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

Agenda 家庭基礎（実教出版） Agenda 家庭基礎学習ノート（実教出版）

2, 科目の目標

人の一生に関わる衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得する。生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図るような能力と実践的な態度を育てる。
--

3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	・自分、家族	・家族・家庭の意義、家族・家庭と社会のかかわりについて知るとともに自己の生活設計を考える。	35	既習範囲
	5月	・子ども	・子どもの発達から社会の役割を考える		既習範囲
	6月	・高齢者、社会福祉	・高齢者とそれを支える社会のしくみを理解する。		
	7月				
	8月	・衣生活	・被服や材料の機能、服飾文化を理解する。		
	9月				
後期	10月		・衣服の管理について理解する。 ・制作実習	35	既習範囲
	11月	・食生活	・食生活と健康のかかわりを理解し、実生活に生かせる力をつける ・調理実習及び実験		既習範囲
	12月	・消費社会	・消費者としての自覚を持ち、経済社会や環境について知識を持ち、生活を工夫し、生涯を見通す力を付ける。		
	1月		・住居の機能や住環境について理解する。		
	2月	・住生活			
	3月				

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技術を身につけることができたか	定期考査、授業プリント、提出物（作品・レポート・宿題など）などを総合的に判断する。
思考・判断・表現	内容から課題を見つけ、解決に向けて思考判断し、それを自分なりに表現することができたか	定期考査、授業プリント、提出物（作品・レポート・宿題など）、発表などを総合的に判断する。
主体的に学習に取り組む態度	内容に関心を持ち、主体的に取り組む姿勢が見られるか	提出物（作品・レポート・宿題など）、授業態度（出欠、授業・実習への取り組み）などを総合的に判断する。

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

(1)教科書、プリントを主として学習を進める。実習実験の際には身だしなみを整えて安全面、衛生面に気をつけて取り組む。 (2)プリントや資料はファイルに整理して各自管理する。 (3)実習への取り組みや出来栄からも学習内容の定着を評価する。 (4)進度により内容を変更する場合もある。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	家庭・家庭総合(森・イ)	単位数	2	担当者	橋爪
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）
家庭総合学習ノート（東京書籍）

2. 科目の目標

- ・自分の生活を見直し、よりよい環境やよりよい生活を築いていくためにどんなことをしたらよいかを考え、それを生活に生かせる力をつける。
- ・生活に必要な知識や技術を身につけ、生活者として自立できる力をつける。

3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	1、自分らしい人生をつくる ・家族、家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会	・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて知る。 ・子どもの発達と保育について知る。 ・子育て環境の変化や課題を知り、子どもが健やかに育つ社会の実現について考える。	35	既習範囲
	5月				
	6月	2、子供と共に育つ ・子供の発達と発育 ・子供の特徴			
	7月	・保育環境と福祉			既習範囲
	8月				
	9月	3、衣生活をつくる ・被服の役割			
後期	10月	・被服材料と性能 ・被服管理 ・衣生活の文化と知恵	・日常着用される被服の素材について理解を深め、その選択や取り扱いについて理解する。 ・健康と安全に配慮した被服の選び方を知る ・日常生活の中で活用できる技術を身に付ける。 ・制作実習	35	既習範囲
	11月	・被服をつくる			
	12月				既習範囲
	1月	4、経済生活を営む ・消費者としての自立 ・現代の消費社会			
	2月	・これからの消費生活と環境 ・家計をマネジメントする	・消費社会の現状や消費者をめぐる問題を理解する。 ・消費者の権利や責任を理解する。 ・消費生活と環境との関連を考える。 ・ライフデザインと家計を考える		
	3月				

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技術を身につけることができたか	定期考査、授業プリント、提出物（作品・レポート・宿題など）などを総合的に判断する。
思考・判断・表現	内容から課題を見つけ、解決に向けて思考判断し、それを自分なりに表現することができたか	定期考査、授業プリント、提出物（作品・レポート・宿題など）、発表などを総合的に判断する。
主体的に学習に取り組む態度	内容に関心を持ち、主体的に取り組む姿勢が見られるか	提出物（作品・レポート・宿題など）、授業態度（出欠、授業・実習への取り組み）などを総合的に判断する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- (1)教科書、プリント、学習ノートを主として学習を進める。実習実験の際には身だしなみを整えて安全面、衛生面に気をつけて取り組む。
- (2)プリントや資料はファイルに整理して各自管理する。
- (3)実習への取り組みや出来栄からも学習内容の定着を評価する。
- (4)進度により内容を変更する場合もある。